平成 19 年 1 月 17 日

北関東会場

於：シムックス

中斎塾準備フォーラム　第 6 回講話

中斎塾フォーラムは、学ぼうという方々にお集り戴こうと思っています。

「学ぶ」と「教わる」とは根本的に違います。

「学ぶ」とは、意欲を持って積極的・能動的に行動していくことが根幹にあります。

「教わる」とは、受身です。

口をあけて、教えて貰うものを消極的に待っているのが「教わる」です。

学びたい、学ぼう・・・は積極的です。

人生は積極的な方がより明るく、前向きに前進できます。

今の時代は非常に混迷を深めています。

親が子供を殺し、子が親を殺すという、何という殺伐とした世の中になったことかと思っております。

経済面・教育面、或いは人生を如何に生きるかという心の問題・・・＜本質・大局・歴史＞判断の三原則のあらゆる面から見て、問題がありすぎる時代です。

もう今の文明は終末に来ていると言って良いでしょう。

西洋の文化・文明が終わり、次に東洋の文化・文明が花開く転換期に来ていると感じています。

こういう文化・文明の転換期のなかで、＜足るを知る＞という心を、東洋から世界に向かって発信する時代に入ったと感じます。

世界に向かって発信するものを、日本から、この関東から出して行きたいと思っています。

中斎塾は 4 月 1 日から正式スタートです。

今現在は準備フォーラムでございますので、皆様のお知恵を戴きながら詰めていきたいと思います。

中斎塾は、自分自身の心の中から＜足るを知る＞という心を掘り起こして自覚し、それを回りの方にも広げていく活動が出来れば良いと願っています。

その結果日本人が日本民族として、人間として大切な心に目を向けて、それがその後、日本全体に広がれば有難いし、日本から世界に向けて知足の心を発信してゆく。

そして環境問題は当然として、人類が滅びつつある時期に来ている事を私共が自覚してい

けば、日々の活動実践に大きな変化が生じると考えています。

具体的な事を申しますと、毎月 1 回「先月は嘘をつかなかったかな？」と自問自答して戴き、嘘をつかなかったという 1 ヶ月が過ごせたら、私共の集まりは素晴らしい集まりになると思います。

ここは学ぼうとする方々の集まり、そして＜足るを知る＞という考え方を身体に染み込ませる集まりだと考えています。

その学び過程で＜本質・大局・歴史＞の判断基準を、御一人・御一人が身に付けて戴ければ有難いと考えて中斎塾をスタートさせて戴きました。

では、本日の講話に入ります。

最初に素読の体験をして戴きます。

素読の効用は、自分が困った時、生きるか死ぬかの時に、身体の奥深い所に摺り込まれている言葉があると、はっと氣が付く事が多々あるものです。

どうにもならない、困ったなあと思った時、その言葉が浮かんでくると、判断に困る事はありません。

判断基準が知らず知らずの間に摺り込まれる。

そういう勉強方法です。

これは明治・大正・昭和の前半、教養人といわれる方々が、小さい時から自然と摺り込まれた勉強方法です。

これを身に付けて戴いても、今日聞いたからといって明日役に立つわけでありません。

ただ 5 年、10 年、15 年と学び続けますと、自然と身に染み込んで参ります。

非常に役に立つ学び方と言えます。

今日用意した素読の資料は、3 月 18 日の中斎塾創立記念式典で、湯島聖堂の大成殿前で素読をする資料です。

（素読）

【論語　学而第一】

一、子曰く、学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。

朋の遠方より来る有り、亦楽しからずや。人知らずして慍らず、亦君子ならずや。

三、子曰く、巧言令色　鮮きかな仁。

四、曾子曰く、吾日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。

朋友と交わりて信ならざるか。習わざるを伝えしか。

十三、有子曰く、信　義に近ければ、言復むべきなり。

恭　礼に近ければ、恥辱に遠ざかるなり。

因ること、其の親を失わざれば、亦宗とすべきなり。

十六、子曰く、人の己を知らざることを患えず。人を知らざることを患うなり。

斯文会　訓点論語より

儒学という学問がございます。

これは孔子が創始と言われています。

儒学は後世になって、朱子学が生まれました。

朱子学は、机の前に座って一所懸命勉強して下さい、というものです。

「眼光紙背に徹する」「行間の文字を読む」という言葉をお聞きになったことはありますか。

これは朱子が言ったものです。

本を読む時には書いてあるものをよく読んでいると、書いた人の息遣いが伝わってくる。

どういう思いで書いたかが分かる。

そうすると行間に書いていない文字まで、腹に収めた文字まで、推察できるというわけです。

朱子が誕生して以来、朱子学が世に喧伝されて、中国では科挙という制度が生まれました。

時代が移り、朱子学の学習方法に疑念を持つ、王陽明が出現しました。

陽明は朱子学に対抗する概念を打ち出し、陽明学を確立しました。

朱子学はじっと座って勉強に勉強を重ね、思索にふける結果、素晴らしい考え方を生み出していき、行動に移るという考え方です。

陽明学は行動が先です。

行動する事によって、自分に染み込むものを発見し、実証していく学問です。

日本に朱子学が伝わり、陽明学が伝わりました。

江戸幕府のものの考え方は、朱子学でした。

しかし明治維新の時に、陽明学が花開きました。

中江藤樹が最初ですが、明治維新の時に佐藤一斎が陽明学を広めたと言っても良いでしょう。

佐藤一斎のお弟子達、孫弟子たちが相争って戦って、成功したのが明治維新です。

明治維新の思想的なバックボーンは、敵味方とも佐藤一斎の陽明学だと言われています。

陽明学を学んで、経営の考え方を日本に導入した人に渋澤栄一がいます。

渋澤栄一は論語を学んで、論語の中から経営の仕方を学び、世界各国が日本をどう見ているか、そして日本はどう対応すべきかを学び、日本の国の中に今の株式会社制度を導入したわけです。

このような状況で、学問が今現代に伝わって来ています。

学縁で申しますと、佐藤一斎が明治維新の思想の中枢です。

そのお弟子さんに、山田方谷と佐久間象山がいます。

山田方谷は困窮を極めていた松山藩の財政を、今の金額に換算すると 20 億の借金を 8 年で完済し、利益を生み出した人物です。

山田方谷のお弟子さんが、河井継之助と三島中洲です。

佐久間象山のお弟子さんが、小林虎三郎と吉田松陰です。

河井継之助と小林虎三郎は、米百俵で知られています。

三島中洲は二松学舎大学を作りまして、大正天皇の漢詩の先生を生涯続けました。

歴代天皇の中で、漢詩の素晴らしさでは大正天皇の右に出る者はいないと言われています。

佐藤一斎・山田方谷・三島中洲の学縁、その流れの中で私は石川梅次郎先生に教えて戴き、皆様方にお話ししています。

そういう学ぶ縁につながって、百数十年間連綿として続いて裏打ちされたものを、今お話ししているわけです。

論語をよく熟読玩味して、陽明学が生まれました。

本日の陽明学の一言は、＜知行合一＞を申し上げます。

陽明学は行動の学問です。

行動する事によって知恵が生まれます。

知識だけでは、人は動きません。

実体験を持って指し示せば、必ず人は動いてくれます。

例えば皆さんの目の前に、おいしい儲け話がふって湧いたとします。

目の前の利益だけで食いつくと、必ず後で厄介事が起きます。

論語に「利によりて行なえば、怨み多し」とあります。

衝動買いをせずに、ちょっと頭を冷やす習慣を身に付けておくと良いでしょう。

そして素晴らしいと思った時には、是非行動して下さい。

初めての取引先だったら、相手の会社に行き、現状を調べる。

素晴らしい人だと思ったら、相手の家庭環境や生活を調べる。

行動が肝心です。

日本は今、借金漬けです。
年が明けてからテレビ・新聞等で、日本の借金は 1000 兆だと、ごく当たり前に出てきました。
昨年は 1000 兆という数字は出ていませんでした。
最近テレビでも騒がれている夕張市は、借金まみれでどうにもならないで破産をした自治体です。
これに次ぐものは東京都、大阪府、主だった都道府県は皆、その寸前に来ています。
ただ政府関係者の皆さんは、新聞・テレビの報告によりますと、
「夕張市で驚いてはいけません。日本の国の現状は、夕張市よりはるかに悪化しています」という言い方をしているようです。
他人事・評論するだけで、自分の事のように心配している事は、まったくけしからんと思います。

これを判断の三原則で見ます。
＜本質・大局・歴史＞の観点で眺めた時に、日本の現状、かつてこれと同じような事が起きたかどうかを調べると良いでしょう。
何度もお話ししています。
昭和 21 年 2 月 17 日付けの新聞を、インターネットもしくは国会図書館に行って調べて下さい。
日本がかつて今の日本と同じ、それ以上の借金まみれになっていた事が明確に書いてあります。
わずか 60 年前です。
その時何が起こっていたか。
銀行に預けていた預金が下せなくなっています。
下せた時は紙くずでした。
箪笥預金も巻き上げられました。
金融緊急措置令です。
お金持ちからは富裕税と称して、財産の 9 割方を巻き上げました。
国民は丸裸です。
又、都会には食べ物がありませんから、地方にいる人は都会に来てはいけないという都会

地転入抑制緊急措置令が出ています。
　食料は勝手に売ったり、買ったりしてはいけないという、食糧緊急措置令が出ています。
　お金は取られてしまって、食べ物は簡単に手に入らない。
　凄まじいインフレは起きた。
　とんでもない時代でした。
　歴史から見ると日本は又、それと同じ局面に立っています。
　同じ事が起きないはずがない。
　私はそれを断言しています。
　ですから準備しなければなりません。
　政府は本当の事を言うはずがありませんから、信用できません。
　カンフル剤を注射しなければなりませんから、日銀は利上げをせざるを得ないでしょう。
　しかし下手にやってしまうと、傷口が余計に開きます。
　政府は「日本は潰れるはずありません」と発信していますが、瀕死の重傷を負った人に「傷は浅いぞ、しっかりしろ！」と言わなければならない立場だから言っているのだとご理解下さい。

　60 年前の日本を縦軸で見ました。
　では、横軸は何を見るかです。
　日本国内を見たのではもう遅い。
　私は、潰れた国はどうなったかを見に行かなければならないと感じました。
　陽明学は行動の学問ですから、即行動に移り、潰れた国家を見て来ました。
　ロシア・アルゼンチン・ペルーに行きました。
　これからトルコに行きたいと思っています。
　先日警察庁の或る方とお会いした時に、その方が
「国の体制が崩壊した時にその国民が大量に死ぬ国と、ほとんど死なない国がありますね。大量に死んだ国はロシアと中国ですね。死ななかった国は中南米の国々です。それは食べ物が豊富にあったからです。」と言われました。
　なるほどなと思いました。
　私はロシアに去年行きましたが、ロシアで実感した事は、１千万単位で人が死んでいるという事です。
　食べ物がないから、飢え死にです。
　極寒地で食べ物が出来ないから、地方から都会に出てくる。

しかし都会にもない。

もの凄い数の人が死んだとあるけれども、現地では正確な数は分かりませんでした。

日本に帰ってきて専門家の方にお聞きしたら、人口の増減と平均年齢から踏まえて、ソ連からロシアに変わった時に、約３千万人が死んでいるという結論をその方は出していました。

私が行って感じた事は、飢え死にだが、ウォッカを飲みつつ陶然として凍死したというのが実感でした。

そしてアルゼンチン・ペルー・ブラジルを回ったら、食べ物が沢山ありました。

ただ、アルゼンチンでインフレを聞いたら、当時は５千倍くらいの凄まじいインフレでした。

アルゼンチンで実感した話を致します。

日本でも起こり得る事です。

ある日突然、銀行からお金が下せなくなりました。

アルゼンチンで知り合った方は、次のような方法で自分の財産を守ったそうです。

銀行に預けているお金が、ある日突然下せなくなる。

ただし 1 日 100 ドルは下して良いという事でしたから、奥さんと手分けして 100 ドルずつを毎日下ろしたそうです。

色々調べたら、A銀行から別の銀行へ送金は出来たので、預金をいくつもの銀行に振り分けて、奥さんと朝から晩まで毎日何ヶ月も 100 ドルずつＡＴＭで下して歩いたそうです。

そうする事によって、自分の預金の半分くらいはキャッシュに替えられたそうです。

これがアルゼンチンのお金を守る実態でした。

今の日本の状況を見ると、すごく似ていますね。

ＡＴＭからお金が下せないでしょう。

送金も或る条件下では 10 万円までとなりましたね。

テロの対策だと言っています。

もちろんそれもあるでしょうが、日本の国が引っくり返った時に国民が暴動を起さないように、鎮圧する為の手を先に打っているのだと思います。

だから自衛隊も堂々と活動できるようにしています。

警察も増員の方向です。

国民がお金を自由に下せないという無意識の自覚を持つように、どんどん手を打っています。

今の日本は、これから国が潰れるという事を想定して、手を打っているなと感じます。

国家破綻がひたひたと近づいているなと感じます。
アルゼンチン・ペルー・ブラジルを回って来て、そう実感しました。
これが陽明学から出てくる、行動の学問の実践です。

次に、今年の干支、丁亥（ていがい・ひのとい）についてお話し致します。
安岡干支学という学問があります。
干支学とは、六十年周期で歴史を見ます。
我々の 60 年前は、先ほど申し上げた通りです。
そしてそれを踏まえて、今年は丁亥です。
「丁」は釘の頭、「亥」は爆発を意味しています。
干支は緩やかにつながっていますから、昨年の干支、丙戌はどういう年だったかを考えます。
「丙」は台座、「戌」は色々なものが無秩序に繁茂している、という意味です。
昨年、丙戌について私はこう申し上げました。
「今年は生首が飛ぶ年です。政治家・高級官僚・経済界・・どんどんトップの首が飛びます。生首が飛んで、台座の上にさらされます。」
丙戌を受けて今年は、昨年出なかった生首がどんどん出る年です。
ですから政治家や高級官僚の首はどんどん飛びます。
経済界の大企業のトップの首も飛びます。
今年は、日本の政・官・財のトップの首が飛ぶ。
どんどん据え変わります。
不二家の社長が退陣しても、すぐに次に変わる首が出ましたね。
どんどん入れ替わるのが「丁」です。
新旧交代の時期だと言っても良いのですが、まだ爆発的に「新」が生まれてこない。
その前に血が流れる時代です。
ただ怖いのは、「亥」です。
昨年は血の流し方が足りないから、爆発的にもっと出るというのが「亥」です。
したがって大事件や大事故、大災害が起きる可能性が高い年だと思っています。
北朝鮮から何かが飛んで来てどこかに落ち、それを受けて日本国政府が対応を始める。
・・・有り得ない話ではない、非常に近い話だと思っています。
或いは大きな災害が起きるかもしれません。

人の死に方は凄まじい。

そういった事が起きる年であろうと思います。

言い方を変えると、ご自分が経営している会社がとんでもない不渡りをつかまされて、倒産の憂き目に遭う。

家庭の不安は表面化する。

いわゆる猟奇的な事件も続発する。

色々な意味で、人間の根幹に触れるような大きい問題が起きる年になるでしょう。

ただそういう事が起こり得ると思って、準備をしておく。

結構早くから危険予知をして手を打っておけば、回避できると思います。

政府は決してあてにはできません。

皆さんもご自分の得意な分野を活かして戴いて、危険予知をして下さい。

そして出来たら中斎塾フォーラムで、その危険予知を発表して戴いて、その具体的な行動を皆さんで検証する。

それを世間に向かってもっと発表し、日本国内に広めて、国外にも出していく。

中斎塾で＜足るを知る＞という考え方を学び、自分の中で咀嚼して、是非外部に発信して戴きたい。

行動して発信する、そして又行動して発信する・・・という事を繰り返していると、自分でも氣が付かないうちに、回りから見るともの凄いレベルアップができると思います。

是非ご一緒に自己研鑽をしていきましょう。